



大切な人との付き合い方は  
緩く、長く、が秘訣です

たがい・かんしょう 1960年生まれ、東京都出身。北里大学獣医畜産学部畜産学科卒業後、アメリカの牧場で酪農に従事。帰国後、立正大学で仏教を学び僧侶に。一般社団法人「仏教情報センター」前事務局長。仏教テレフォン相談や生死病死をテーマとした講演会を行う「いのちを見つめる集い」に参加し活動している。2002年より経王寺の住職に。<http://www.kyououji.gr.jp>

表現できる場があり、苦しんでいたり、お坊さんの仕事がこんなに深いとは思つていませんでした。

そのテレフォン相談で「あなたのお寺では法話会をやっていますか?」と聞かれました。私の寺では行つていませんでしたが、それをきっかけに毎月1日に法話会を始めるようになりました。すると法話会の参加者から「お寺で修行のようなことができなないか」と言われ、「日修行を始めることに。さらに法話会で流していた音楽をきっかけに『お寺で生の音楽

メールではなく直接話すことで大切な繋がりが保てる

私がそのように人と繋がりを持つとき、大切にしていることがあります。それは「たくさんの人と繋がらなくてもいい。でも大切な人だと思つたら、生での繋がりを大事にする」ということ。用があるときは電話、または直接会って話をします。メールでは嘘もつけますが、生の声は嘘つけません。そしてたまに会つたり、共同作業をするくらいの緩い関係でいると。緩く、長く。それがずっと繋がつていられるコツなのです。

Heart Beauty Salon

# サトリのココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗経王寺住職  
互井觀章さん

第36回

私はお寺の息子に生まれましたがが、仏教に興味がなく、酪農をやりたかったので大学で勉強をし、アメリカの牧場で働きました。その後カナダへも行きましたが、ビザが切れて帰国。アルバイトをしながらプラプラしていると、住職だった父が「何をすることがないなら、坊さんになつてみると」と。我ながら不純な動機でお坊さんになつたのです(笑)。

そんなわけでは最初、仏教が全然わかりませんでした。専門用語ばかりだし(笑)。お坊さんの私

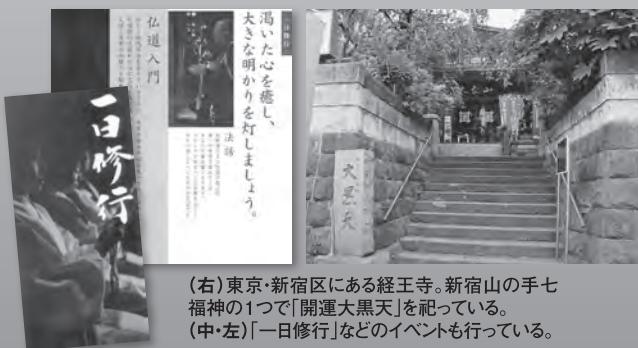
がわからぬのだから、世間の人もわからないだろう。だつたらみんながわかるように仏教を伝えたい……そんな思いを持ちました。

お坊さんとして大切なことをテレフォン相談から学んだ

ちょうどそのころ、「仏教テレfon相談」の相談員を務めることに。電話で相談を受けるのですが、人生相談もあれば仏教に関する質問もあります。「死ぬつてどういふこと?」「悟りつて何ですか?」

……私は当初、まったく答えられませんでした。いつも反省ばかりで、終わるとぐつたり。でも、それで私の人生は大きく変わりました。

そこは自分がお坊さんとして何が足りないのか、気づかせてくれる場所だったのです。自分には何が足りないのかを知り、足りないもの勉強する。勉強したらそれを表現できる場があり、苦しんでいたり、お坊さんと話すときに役立つ……



(右)東京・新宿区にある経王寺。新宿山の手七福神の1つで「開運大黒天」を祀っている。  
(中・左)「一日修行」などのイベントも行っている。